

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	京都産業大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キョウトサンギョウダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F126310107500
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	京都府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	情報理工学特別研究ⅡA・ⅡB
	学部・研究科等名	情報理工学部
	担当教職員名・役職	蚊野 浩教授(情報理工学部)
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	1
	受入企業等数	1
	受入企業等名	堅田電機(株)
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	大学で学んだ知識や技能を利活用することを目的とし、企業と教員・学生とが話し合いによって実習テーマを設定する。そして学生に対して、実習過程においてモノ(ソフトウェアやハードウェア)を制作すること、または、課題分析から新しい提案を考案し、レポートとしてまとめることを課すことで、新しいシステムの立案、設計とその実装する能力の向上を試みた。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	9.その他
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	当該科目は必修科目であるが、インターンシップについては、必須ではない。
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部4年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 6単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	当該科目は必修科目であるが、インターンシップについては、必須ではない。
	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている

要素③		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	インターンシップ実施前に受入企業の事業内容等に関して事前に調査・研究し、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行い、実施目的や期待する教育的効果を学生が理解した上で実施している。また、学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を指導している。
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	インターンシップ終了後、振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認し、発表会の際、成果を報告している。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	インターンシップ期間中、定期的に現地またはオンライン会議で打ち合わせおよび指導を行っている。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	4.その他
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	PROG テストを実習の前後で行い、それぞれの結果を比較することにより、その実習での学生の成長を評価している。
	4-3.上記回答内容に関する詳細	PROG テストは、リテラシー能力（知識を活用する力）とコンピテンシー能力（実践的に働きかけ対処する力）の両面から個人のジェネリックスキルを測定している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	実施期間4 ヶ月間（うちインターンシップ実施期間5 日間）

	5-3.上記回答内容に関する詳細	2021年4月9日から2021年8月8日までの間の4ヶ月の期間、1名の学生に対して実施した。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
6-3.上記回答内容に関する詳細	大学で学んだ知識や技能を利活用することを目的とし、企業と教員・学生とが話し合いによって実習テーマを設定する。そして学生に対して、実習過程においてモノ（ソフトウェアやハードウェア）を制作すること、または、課題分析から新しい提案を考案し、レポートとしてまとめることを課すことで、新しいシステムの立案、設計とその実装する能力の向上を試みた。	
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	
問い合わせ先	大学等名	京都産業大学
	担当部署名	情報理工学部事務室
	担当者役職名	課員
	担当者氏名	木村 太一
	電話番号	075-705-1989
	メールアドレス	<a href="mailto:information-se-jim@star.kyoto-su.ac.jp">information-se-jim@star.kyoto-su.ac.jp</a>